

北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調 査 時 点 平成 2 8 年 4 月 1 5 日

(2) 調査対象期間 平成 2 8 年 1 月～3 月期実績および平成 2 8 年 4 月～6 月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の 5 業種 1 5 0 社を往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	3 0 社	2 2 社	7 3 . 3 %
建 設 業	3 0 社	2 4 社	8 0 . 0 %
卸 売 業	3 0 社	2 2 社	7 3 . 3 %
小 売 業	3 5 社	2 3 社	6 5 . 7 %
サービス業	2 5 社	1 8 社	7 2 . 0 %
合 計	1 5 0 社	1 0 9 社	7 2 . 7 %

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成27年度第Ⅳ四半期<平成28年1月～3月>の北見市における業況は、前年同期比で「好転企業」33.9%、「悪化企業」33.9%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は0となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期△29.6→今期0と29.6ポイントの好転を示しています。また、前期<27年度第Ⅲ四半期>との比較でも、前期△6.5→今回0と6.5ポイントの好転となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値0、建設業D・I値9.1、卸売業D・I値18.1、小売業D・I値0、サービス業D・I値△22.3となっており、前年同期調査と比較すると、小売業で39.2ポイント、卸売業で38.1ポイント、建設業で34.1ポイント、サービス業で27.7ポイント、製造業で21.7ポイントと全ての業種で好転となりました。

特に、前年同期と比べ小売業で39.2ポイント、卸売業で38.1ポイント、建設業で34.1ポイントの大幅な好転傾向を示し、D・I値では小売業では0、卸売業と建設業ではそれぞれ18.1、9.1とマイナスからプラスに転じる結果となりました。卸売業、建設業、小売業の業況の内訳を見ても様々な業種で改善し、好転を示しています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」24.8%、「悪化企業」33.0%でD・I値△8.2と、前年同期見通し(△22.6)に比べ14.4ポイントの好転傾向を示し、回復傾向が見えつつある来期見通しとなっております。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」31.8%、「減少企業」36.4%、D・I値△4.6と前年同期に比べ12.7ポイントの好転を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」40.9%、「悪化企業」31.8%、D・I値9.1と前年同期より13.4ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△9.1、生産高D・I値△4.5、資金繰りD・I値0と前年同期に比べ全て好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高 前年比で「増加企業」12.5%、「減少企業」58.3%、D・I値△45.8と、前年同期に比べ24.3ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」37.5% D・I値△12.5と前年同期に比べ8.9ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△4.1、完成工事高D・I値△4.1、資金繰りD・I値0と前年同期に比べ全て好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」45.5%「減少企業」31.8%、D・I値13.7と前年同期に比べ45.7ポイントの大幅な好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。

採算 前年比で「好転企業」31.8%、「悪化企業」22.7%、D・I値9.1と前年同期に比べ53.1ポイントの大幅な好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。

来期見通し 業況D・I値△4.6、売上高D・I値0、資金繰りD・I値9と、前年同期に比べ業況と売上高はほぼ横ばい傾向を示したが、資金繰りはマイナスからプラスに転じる結果となりました。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」34.8%「減少企業」39.1%、D・I値△4.3と前年同期と比べて39.2ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」26.1%「悪化企業」30.4%、D・I値△4.3と前年同期と比べて45.6ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値4.4、売上高D・I値△8.8、資金繰りD・I値4.4と前年同期に比べ全て好転傾向を示し、業況、資金繰りはマイナスからプラスに転じ、明るさが見える来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」50.0%、D・I値△33.3と前年同期と比べ4.1ポイントの好転傾向を示しました。

採算

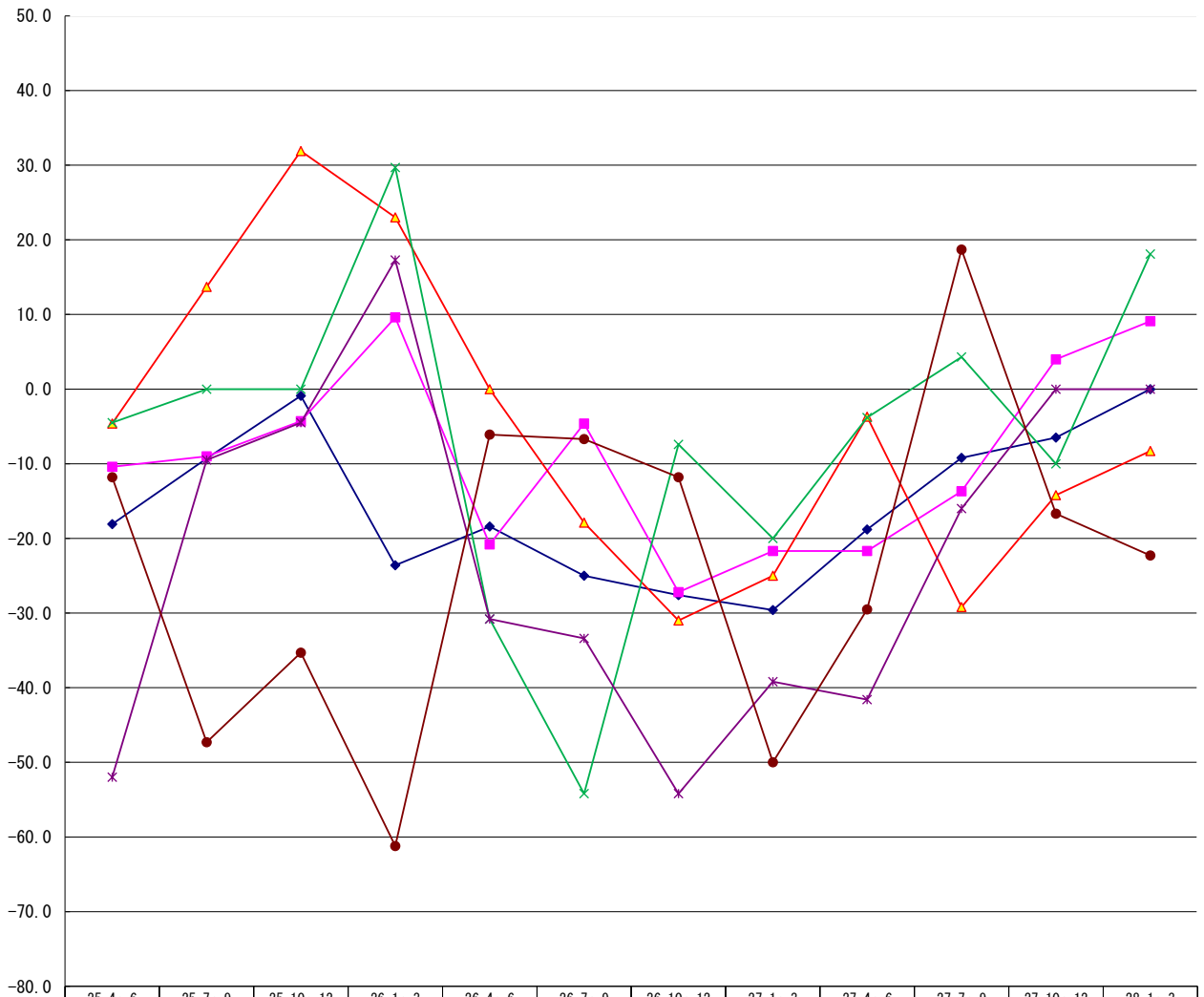
前年比で「好転企業」11.1%、「悪化企業」50.0%、D・I値△38.9と前年同期から11.0ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△33.3、売上高D・I値△33.3、資金繰りD・I値△38.9と、前年同期と比べ業況、売上高は若干好転、資金繰りは悪化傾向を示し、全てにおいて大幅なマイナス値となっており、依然として厳しい来期見通しとなっています。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
 ■ 製造業
 ▲ 建設業
 ✕ 卸売業
 ✱ 小売業
 ● サービス業



	25.4~6 25年度I	25.7~9 25年度II	25.10~12 25年度III	26.1~3 25年度IV	26.4~6 26年度I	26.7~9 26年度II	26.10~12 26年度III	27.1~3 26年度IV	27.4~6 27年度I	27.7~9 27年度II	27.10~12 27年度III	28.1~3 27年度IV
◆ 全業種	-18.1	-9.3	-0.9	-23.6	-18.4	-25.0	-27.6	-29.6	-18.8	-9.2	-6.5	0.0
■ 製造業	-10.4	-9.0	-4.3	9.6	-20.8	-4.6	-27.2	-21.7	-21.7	-13.7	4.0	9.1
▲ 建設業	-4.6	13.7	31.9	23.0	0.0	-17.9	-31.0	-25.0	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3
✕ 卸売業	-4.5	0.0	0.0	29.7	-30.8	-54.2	-7.4	-20.0	-3.8	4.3	-10.0	18.1
✱ 小売業	-52.0	-9.5	-4.5	17.3	-30.8	-33.4	-54.2	-39.2	-41.6	-16.0	0.0	0.0
● サービス業	-11.8	-47.3	-35.3	-61.2	-6.1	-6.7	-11.8	-50.0	-29.5	18.7	-16.7	-22.3

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 件 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足
合 計	同業者間の競合	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

全業種で見ると、前年同期調査で2位だった「同業者の競合」がトップとなり、前年4位の「人材不足」が2位、トップだった「諸経費増」が4位と順位が入れ替わった。3位と5位は前年と変わらず1～5位までの項目に変化は無かった。

また、業種別でみると小売業のみトップが前年2位の「同業者間の競合」と入れ替わり、その他の業種ではトップが前年同様という結果となった。建設業では前年5位の「人件費増」が2位と大きく順位を上げる結果となった。

全体を通して、多少順位の入替わりはあるが、問題点で挙がってきている項目に変化はなく、前年同期同様の問題点を抱えていることが伺える。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○下水道工事の落ち込みで、マンホールの蓋が全然出ない (鋳物製品製造)

○若者の技術、技能職離れ (建設用金属製品)

(建設) ○従業員の高齢化 (土木・建築)

○公共工事の減少 (土木・建築)

○多忙期の人材不足 (内線工事)

○工事の発注時期が重なり、人材不足となる (電気設備工事)

○少子化による技術者不足 (板金)

(卸売) ○求人しても人が来ない (業務用食品)

○海外工賃の高騰 (作業服)

○パートが集まらない (作業服)

○競争による利幅の減少 (種苗)

(小売) ○お年寄りが増える中、一人一人の問診を重視すべき (眼鏡)

○銀行から借入せずに営業していくことは資金繰りが大変 (生鮮食品)

(サービス) ○国及び北海道発注物件に対し地域限定入札が行われておらず、だれでも参入できる状況になっている (ビルメンテナンス)

※消費税増税の影響について

(製造) ○売上減少につながる (建築建具用木材製造)

(建設) ○仕入等に影響がある (内線工事)

(卸売) ○10%の増税となると影響が出てくると思う (種苗)

業 況

製造業 ⇒ 好転 (木製建具、一般機械、農産物加工製造、生麺類等、建設用金属製品)
悪化 (印刷、一般木材、石灰製品、鋳物製品製造、石材加工、ブロック製造)

建設業 ⇒ 好転 (土木・とび木工)
悪化 (舗装、管工事、板金)

卸売業 ⇒ 好転 (作業服、米穀、一般玩具、医療・介護用品、鋼材、石油製品、種苗・農業資材)
悪化 (青果物委託販売、家電、化粧品、建築金物)

小売業 ⇒ 好転 (和洋菓子、酒類、眼鏡販売、自動車、家具、家電製品、生鮮食品)
悪化 (衣料全般、青果、農業機器、時計、画材、米穀)

サービス業 ⇒ 好転 (ビルメンテナンス、理美容、自動車賃貸)
悪化 (ホテル、飲食、クリーニング、弁当仕出)

(※太字アンダーライン表示は重複該当業種)